SkeedSilverBullet™ 導入事例

SKEED

株式会社 スタジオ雲雀　様

Extreme File Transfer で
ベトナムと連携したデイリー業務を実現！

古くは、懐かしのアニメ「キャプテン翼」等の制作協力等をへて、近年では「爆丸バトルブローラーズ」、「夢色パティシエール」など、シリーズものアニメーション制作を中心として活躍中の株式会社スタジオ雲雀様。

2000 年を過ぎたあたりからアニメーション業界では、デジタル化が進展していったが、テレビのハイビジョン化に伴いデータの大容量化が顕著になってきた。一方、海外拠点との水平分業も進む一方であり、スピーディーかつ、安全なデータの授受を実現する必要があった。そのため、2011 年 9 月末より SkeedSilverBullet™ を用い、懸案であった現地と日本との業務サイクルを短縮、デイリーで回せる環境を実現した。

課題

- ●アニメーション制作事業におけるテレビのハイビジョン移行による大容量化と海外拠点との水平分業化に伴い、海外現地とのコンテンツ受け渡しの業務サイクル短縮が切実な課題として浮上
- ●日本から依頼したデータは数十倍の容量に増えたデータとして戻ってくるため、特に時間を要する
- ●自社スタッフが現地（ベトナム）に飛び現地入りするだけでも最低 12 時間を要し、コスト、リードタイムとも許容できず

検討プロセス

- ●日本とベトナム間で日次業務を連携する必要があるが、日本時間に合わせた送信を行う場合、ベトナムは回線の一番込み合うタ方になる。そこで回線が込み合う中でも速やかに日本に転送できる必要があった。そこで次の点を検討。
  - ➢HTTP 上で FTP でベトナムから日本に 200 MB のファイルを送ると 300～800Kbps の速度しか出ず。しかも転送途中でエラーや時間帯による速度差が多発
  - ➢専用線はコストが掛り過ぎる
  - ➢「低コスト」「スピーディー」「セキュリティ」「簡単」「便利」といった要素を満たすものとして最終的にソフトウェアである SkeedSilverBullet™を評価し選定

導入効果

- ●日本とベトナム間のデータのやりとりは、FTP の最大約 30 倍の転送速度に向上
- ●1 日当たり平均 10 回の転送を実現

■近年のアニメーション業界の悩み　導入の背景は・・・

スタジオ雲雀は、1979 年にアニメーションの仕上専門スタジオとして設立し、以来アニメーション制作の元請け会社として数多くの作品を手がけてきた。

しかし、近年はアニメーション制作業界全体に関わる問題が浮上しつつあり、スタジオ雲雀もまさにその渦中にあった。同社システム管理チーフの齋藤成史氏の説明によると、その端緒となっているものの 1 つに、国内若手スタッフの減少があるようだ。「もともとアニメーション業界では、分業化でのワークスタイルが根付いており、コスト削減のため、多くの制作会社は、韓国や中国に依頼してきました。よって、国内スタッフが育ちにくく、減少傾向にあります。そのため、これらの国と日本との間で、毎日のように原稿をピックアップしては、ハンドキャリーで届けるという国際バイク便のような輸送体制も構築されています。スタジオ雲雀でも、近年は韓国や中国の動画会社への依頼が増加する傾向にありました」（齋藤氏）

ただし、それだけでは他社との差別化には不十分と感じていたため、スタジオ雲雀では、「クォリティ面から自社製品をコントロールでき、同時に直接関与できること」を条件としつつ、2008 年ごろから東南アジアを開拓し始め、新天地としてベトナムを選定するに至った。尤もベトナムは原稿を空輸するにも距離があるため、従来のハンドキャリーによる輸送は難しく、FTP を用いてファイルの授受を行っていた。ところがアニメーション 1 秒は約 24 コマ。ということは、日本から依頼したデータは、少なくとも十数倍の容量に増えたデータとして戻ってくることになり、時間を要するデータ授受自体が大きな悩みとなった。さらには業務サイクルの短サイクル化（週次から日次へ）に取り組む上でも、従来技術の延長ではない新しい高速ファイル転送手段を、切実に必要とするよう

SkeedSilverBullet™ 導入事例

SKEED

株式会社 スタジオ雲雀　様

株式会社スタジオ雲雀
システム管理
チーフ
齋藤 成史　氏

株式会社 スタジオ雲雀

本社：〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 5丁目32番6号
創立：1979年7月
業務内容：アニメーション2D、3DCG、映像作品の企画、制作、販売

スタジオ名は、「たとえ小さくとも美しい声で鳴く、ヒバリのようなスタジオにしたい」との願いから付けられ、今後もクォリティの高い製品の制作を目指します。

になったのだという。
「自社スタッフが飛行機を利用してベトナムへ飛び、現地入りするには、最低12時間もかかりコストもリードタイムもかかります。『これはまずい』日本だけでなく、ベトナムのネットワークも見ている立場上、どうしたら現地とのデータ授受が低コストで、スピーディー、かつ安全に実現できるかいろいろ模索していました」（齋藤氏）

■SkeedSilverBullet™ の導入は「低コスト」「スピーディー」「セキュリティ」そして「簡単」「便利」が決め手

スタジオ雲雀では、日本とベトナムの間で連携した日次業務を行う必要があり、作業時間を現地のコアタイムに合わせる工夫が求められた。ところが、日本で必要とする時間に間に合うようベトナムから送信しようとすると、現地では夕方にあたり、ネットワーク回線が混み合う時間帯とぶつかってしまう問題が浮上。そのため、「現地回線がもっとも混み合う時間帯であっても、現地の制作データを速やかに送ってもらい、日本で確認、翌朝にはまた日本から制作用データを届けるという流れを確立したかったのです」（齋藤氏）
例えばベトナムから日本に200MBのデータを送る場合､FTTH上でFTPを用いて送ると、実行転送速度は 300～800Kbps がせいぜいとなる。その上、回線品質が悪いため、転送途中でのエラーや再度ダウンロード、時間帯による回線速度差など・・・問題も多発し、結果、受け取るだけで何時間も要した。かといって、専用回線はコストが高過ぎる。デイリーで業務サイクルを回すのは、どうにも厳しい状況にあったという。
そんな中、「2年ほど前から、Extreme File Transfer という新技術領域に関心を持つようになり検討してきた」という齋藤氏は、「低コスト」「スピーディー」「セキュリティ」に加え、「簡単」「便利」という SkeedSilverBullet™ の特長に着目した。「シビアに検討した結果、ソフトウェアで実現する SkeedSilverBullet™ は､求める要件をすべて満たしており､評価に値しました」（齋藤氏）

■最大30倍のスピード、リードタイムの大幅削減

結局、スタジオ雲雀では約半年間の評価と検証を積み重ねたのち、2011年9月末に、SkeedSilverBullet™ の本格稼働を開始した。その後の、稼動状況は極めて良好とのことであり、ベトナムとのデータのやり取りを、これまでのFTP転送にくらべて最大約30倍のスピードで、一日あたり平均10回は行っているという。
また、実際に使ってみての製品評価もよいようだ。「SkeedSilverBullet™ は、『帯に短し襷（たすき）に長し』の製品が多い中、エンタープライズ寄りにも関わらず、非常に扱いやすくコンシューマー向け要素も満たしており、双方を両立した製品だと思います。それに、何といっても導入が簡単で、非常に扱いやすい製品でした」（齋藤氏）
今後、アニメーション業界の扱うデータ容量は増えていく傾向にあり、SkeedSilverBullet™の活用のシーンはもっと増えると齋藤氏は指摘する。このケースを見る限り、その予想に間違いはなさそうだ。

SKEED

株式会社Skeed
〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-6-17 目黒プレイスタワー 5F
TEL：03-5487-1033　　FAX：03-5487-1037
http://www.skeed.co.jp　　E-mail：ssb-std@skeed.co.jp
©2011 Skeed Co.Ltd.